

今日の FX ストラテジー(為替戦略)

多くの為替変動リスクは隅に迫りやられ、メインテーマは「米連邦債上限の引き上げ」と「政府機関の再開」の合意待ち。ただ、多くのファンド決算となる10月末を控えてビクプレーヤーは動けず。

米財政合意の期待感に米株は強く、債券市場も意外なほど冷静で、ドルが大きく崩れる状況には至っていない。逆に、合意とのことでもなれば、米株高=ドル買いに動くと思われる。

短期的にはそれを意識した動きに乗り、「株高=クロスの円安」に対応したポジションメイクが必要と思われるが、その流れが続くかは非常に不透明で、短期取引に徹する必要があるだろう。

ユーロ圏財務相会合では、4年に渡る欧州債務危機の暫定的な勝利宣言を発表。豪中銀議事録(10月1日)分では、早急な利下げのシグナルは発信しないことで合意と、1日の声明文と変わらずだが、市場の反応は好意的でAUD買いへと動く。そして、スパンサーNZ中銀副総裁は住宅ローン新規制で、通貨上昇圧力が弱まると、NZDにとってマイナス材料を示したが、市場はなぜかNZD買いを継続。

EURのプラス材料が示され、NZD・AUDのマイナス材料は無視され、米財政合意後の流れも不透明な現状では、どうしてもドル買いは一時的で、「主役はクロス円の売りに」固まりつつあるように思える。

通貨ペアごとのトレンド(→=ニュートラル、↑=上昇 ↓=下落)

円クロス	
USDJPY	→(円安)
EURJPY	↑(円安)
GBPJPY	↑(円安)
AUDJPY	↑(円安)
CADJPY	↑(円安)

主要通貨	
EURUSD	→↑(ユーロ高)
GBPUSD	→↑(ポンド高)
AUDUSD	→↑(豪ドル高)
NZDUSD	→↑(NZドル高)
USDCAD	→↓(カナダドル高)

ドル円(USDJPY)トレードアイディア

4時間チャートは、トレンドが示せず、98.09~98.71のレンジを示唆。200SMV=98.20、21EMV=98.67で、暫くはレンジを抜け出せそうにない。

8時間チャートは、98.70で上値を押しえられながらも、10月8日からの上昇トレンドが続いている。200SMV=98.67、21EMV=98.20と、98.09~98.71のレンジを抜け出すまでは、押し目買いを推奨するが、上昇トレンドの下限=98.33にあり、98.20~33が買いの狙い目。

4時間チャート



8時間チャート



ユーロドル(EURUSD)トレードアイデア

4時間チャートは、9月19日から続き1.3462~1.3646のレンジを抜け出せないでいる。200SMV=1.3416、21EMA=1.3561で、現状はこの水準を下限に下げ止まっているが、レンジ相場の中心と同じで強いサインではない。

8時間チャートは、200SMA=1.3359、21EMA=1.3560で、1.3646、1.3607、1.3598と上値が徐々に切り下がっているのが気かりだが、弱い三角持ち合いに入り、やや相場が動く可能性が強まっているが、基本的には1.3462~1.3646のレンジ内での取引を考え、いずれかに近づくまでは積極的に動き難い。

4時間チャート



8時間チャート



豪ドル米ドル(AUDUSD)トレードアイデア

4時間チャートは、上昇トレンドを継続し買い。スローストキャスティクスも売り変化は見られない。200SMA=0.9323、21EMA=0.9484でこの水準を下限にして買い継続。トレンドラインの上限を超えると0.9579が次のターゲットになる。

8時間チャートは、200SMV=0.9206、21EMA=0.9465で、この線を下限に買いを継続、レンジ上限の0.9528を超えたことで、0.9674まで上昇する可能性が高まる。スローストキャスティクスはや買い過ぎ感も見られるが売りサインはまだ見られない。

4時間チャート



8時間チャート



今日のアジア市場の動き

USDJPY

早朝の98.69円を高値に、株高の流れにも海外勢の利食い売りが強く、仲値過ぎからは売りが加速し、日経平均株価も高値から値を下げると、98.40円近くまで緩やかに下落へ。

EURUSD

米財政協議の行方待ちで動けず、1.3560を中心に上下10ポイントの狭いレンジで推移。

AUDUSD

前日の米国市場からの上昇の流れが続き、豪S&P/ASX200株は上昇し、豪中銀議事録への反応は鈍い中で0.9500台を上抜け、EURAUDでのAUD買いが続き、0.9540台まで緩やかに上昇。NZDUSDやUSDCADでも同じドル売りの流れが継続し、コモディティー通貨高が続いている。

今日のアジア市場の経済指標の結果・その他

13:30	JPY 8月 鉱工業生産・確報値＝前月比-0.9%(予想 前回-0.7%)、設備稼働率＝前月比-2.1%(予想 前回3.7%)→ 鉱工業生産は下方修正、設備稼働率は上方修正されたが、市場の反応は鈍い
15:45	FRA 9月 消費者物価指数(EU基準)＝前月比-0.2%(予想-0.2% 前回0.5%)、前年比1.0%(予想1.0% 前回1.0%) → 速報値と変わらず

USD	NY大学のルービニ教授＝経済がリセッションに陥る可能性が強まっている。投資家は今のところ平静を保っているが、こうした行き詰まりに伴う不透明感ドルからの資産分散化を海外投資家に促し、ドル安や借入れコスト上昇を招く恐れがあると警告。米経済は不透明感があり、それがすでにビジネスや投資家、消費者信頼感に影響を及ぼし、小売売上高や企業セクターの設備投資減少につながっている。債務上限に達して米国債がテクニカルなデフォルトに陥り、政府機関の一部閉鎖が今後数週間続いた場合、リセッションに陥る重大なリスクが生じるだろう。
EUR	ユーロ圏財務相会合＝アイルランドとスペインへの金融支援が近く終了することを発表し、ギリシャ債務は今後返済が見込める→ 4年に渡る混乱へ暫定的な勝利宣言を発表
JPY	安倍首相の所信表明演説＝用拡大・賃金上昇を進めて消費拡大、新規投資につなげる経済の好循環を実現するため、労使とも連携して取り組む決意を示した。経済再生、財政再建、社会保障改革を同時に達成しなければならない。
JPY	政府＝産業競争力強化法案を閣議決定
AUD	豪中銀理事会議事録(10月1日分)＝理事会は追加利下げの可能性をオープンにしておきつつ、早急な利下げのシグナルは発信しないことで合意→ 10月1日の声明と変わらずだが、AUD買い戻し局面の流れにAUD買いが優勢となる。
NZD	スペンサーNZ中銀副総裁＝10月1日から始まった、ローン資産価値比率(LVR)の高い住宅ローンに対する新規制により、利上げの必要性が減り、通貨の上昇圧力が収まる可能性がある→ NZ金利引き上げ期待がやや弱まるが、市場の反応は鈍い。
NZD	NZ不動産協会(REINZ)調査＝9月までの一年間で、住宅価格は9.8%上昇した。

今日の欧米市場の経済指標・その他

17:30	GBP 9月 消費者物価指数(EU基準)＝前月比予想0.3% 前回0.4%、前年比予想2.6% 前回2.7%、コア前月比予想 前回0.4%、コア前年比予想 前回2.0%、小売物価指数(RPI)＝前月比予想0.4% 前回0.5%、前年比予想3.2% 前回 3.3%、実勢インフレ率(RPIX)＝前月比予想0.3% 前回0.5%、前年比予想 前回3.3%
17:30	GBP 9月 生産者物価指数＝前月比予想0.1% 前回0.2%、前年比予想1.3% 前回1.6%、コア前月比予想 前回0.0%、 コア前年比予想 前回1.0%、投入指数前月比予想0.0%-0.2%、前年比予想2.7% 前回2.8%、産出前月比予想0.2% 前回0.1%、前年比予想1.5% 前回1.6%
18:00	GER 10月 ZEW 景況感調査:景気期待指数＝予想51.0 前回49.6、現況指数＝予想 前回30.6
18:00	EUR 10月 ZEW 景況感調査:景気期待指数＝予想 前回58.6
21:30	USD 10月 NY連銀製造業景気指数:業況指数＝予想7.5 前回6.29 支払価格＝前回21.51、新規受注＝前回2.35
	ユーロ圏財務相会合、ダドリーNY連銀総裁の講演、プラートECB専務理事の講演、フィッシャー・ダラス連銀総裁の講演
	USD 半期に一度の為替報告書→ 発表延期

用語の説明

USD=米国、JPY=日本、GER=独、GBP=英国、CAD=カナダ、AUD=豪州、NZD=ニュージーランド、

CHF=スイス、NOK=ノルウェー、SEK=スウェーデン、CHN=中国、FRA=フランス。為替レート・金・原油価格は参考取引レート。本レポートで言及している市場予想の出所は、情報提供各社の参考資料より。

免責条項

本レポートの内容は、● 情報提供の目的にのみ供されるものとし、いかなる投資商品の提供・勧誘その他法的に拘束され得る行為、また、それら投資商品の推奨、助言等を意図したものではありません。● マーケットに関する意見・予想はその正確性や完全性についてそれらを保証するものではありません。● 筆者によって提供される市場に関する如何なる予測や見解についても、その正確性が検証されている訳ではありません。